

2/27~3/1まで、長野で第41回民医連総会です。

STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ2014推進ニュース

「社会保障の解体は許さない! 介護保障制度の抜本改善を!!」

-今年も介護の“Big Wave”をおこそう!-

「医療は追い出し、介護は切り捨て」医療・介護の一括法案は撤回を! 2月19日 国会要請行動を行いました。

今回の国会議員要請行動は、医療・介護制度の改正を一括して行う『地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律案』を中心に行いました。介護現場の職員だけでなく、各法人・事業所の社保担当者など、合わせて15県92名の参加でした。あいさつで、小池晃参議院議員(日本共産党、元民医連職員)から、「医療介護総合推進法案は前代未聞の悪法。それぞれが重大な内容を含む医療と介護、さらには医療事故調査機関の設置など一括して審議する前代未聞の法案である。医療は急性期病床を削減し、介護保険は一定所得以上の利用者負担を1割から2割へ引き上げ、特養対象者を要介護3以上にし、要支援1・2の訪問介護や通所介護をボランティアなどが運営する地域支援事業へ移管する、介護保険が始まって以来の大改悪である」と話され、安倍内閣の姿勢を厳しく批判しました。続いて伴事務局次長(国民運動部)から『医療介護総合推進法案』の問題点について、小泉内閣時代からの「医療費適正化計画」の再稼働であり、国会の審議を形骸化させ、早期成立をねらうものであるとの報告を受けました。林理事の介護保険「改悪」のポイント学習会のあとは、地域ごとに分かれて、地元出身議員を中心に議員要請行動を行いました。

昼休み集会では、東京民医連の看護師が、特定行為を行う看護師に係る研修制度について、「安上がりな医療、介護につながる」ことを訴えました。

午後のまとめの集会では、参加者から今回の行動の感想と今後の課題について、たくさんの発言が出ました。**奈良**からの参加者は、奈良ヘルパー連絡会で作成した『事例集』と、奈良県の6市町村で介護改悪反対の意見書があがっていることが書かれた資料を持って、議員要請したことを報告。「地元議会から改悪反対の意見書が上がっているのに、我々の要請を無視できない状況にある」**福岡**からは、「毎回1泊2日で参加しているが、せっかく来たのだから、前日は予算委員会を傍聴し、本日は要請行動と行動のしかたを工夫した。委員会ではまともな論議がされていない」**宮城**からは、「歴史が動いていることを感じる国会行動だった」**東京**からは、「ここは陳情の場なのに議員が出てこないのはおかしい、秘書でも私たちの声を聞くのは当然だと思っていたのに、聞いてくれずびっくりした」、「陳情の内容が自分の仕事に直結していたので、政治に参加していると実感できた」、

要支援の利用者は介護保険から外し、市町村の地域包括推進事業(仮称)に移します!

考えて下さい、今の利用者の立場から、これで本当にいいのでしょうか?

*奈良の事例集です
奈良ヘルパー連絡会

「今回の改悪が消費税の増税に結びついていることにも触れながら、運動を広げていきたい」**神奈川のケアマネ**さんは、「あなたたち(議員)の決めたことを利用者に伝えるのは私たち、きちんと説明できるような法案にしてほしいと訴えた。今回の改定案に民医連でないケアマネの中には、まったく疑問を持っていない人もいる。問題だ」**京都**からは、「総会方針には、民医連が政治活動に参加する大切さについて書いてあったが、自分の目線で物事を考えることが大切。議員や秘書の対応を「こんなもんだ」と思わずに、訴え方や自分の言葉を伝える大切さも他の職員に伝えていきたい。忙しい中でも参加する意義を感じた」**兵庫**からは、「議員には会えなかった。次回は、後からでも見たくなるような資料を持ってリベンジしたい」**大阪**からは、「次は職場の意見を持ってきたい。スピード感を持って運動を進めることが大切」**鹿児島**からは、「自分たちも1泊2日で来ている。福岡の参加のしかたをぜひ見習いたい」**茨城**からは、「行政と懇談を行っているが、水戸市はとてもやれるもんじやない、と言っている。市町村と共同できる運動としてがんばりたい」**千葉**からは、「要請では、国民の痛みをどう伝えていくか、準備の大切さをとても感じた。職場の世論を盛り上げることも大切」と、次回につながる意気込みがたくさん出されました。最後に山田智副会長より「介護保険予防給付見直しによる影響予測調査の結果を活用し、議員要請行動や学習に活かして欲しい」と力強く訴えられました。

次回の国会行動は、3月12日(水)10:30~ 署名の提出も行います。手元にある署名は、大急ぎ、全日本民医連事務局までお送り下さい。





熱く語る参加者の
みなさま
お疲れさまでした。

各地の介護ウェーブ 引き続き・・・

岐阜

(岐阜県民医連からの資料提供です。朝日新聞2014年2月8日より)

「県市議会議長会は7日、大垣市内のホテルで会議を開き、国に現行の介護保険制度の継続を求める要望議案を可決した。要支援者の介護予防給付の地域支援事業への移行や介護サービスの自己負担率の引き上げなど、国が2015年度の実施をめざす制度改正について、「見直しを強く要望する」としている。

要望では、要せ員者の地域支援事業への移行について、サービス基盤が脆弱な市町村では介護サービスの低下を招き、公平性が保てなくなると指摘。また、介護サービスの自己負担率が2割になると利用しない人が増え、「老老介護」に舞い戻るとし、現行の1割負担の維持を求めている。」

山形

11.11 介護の日 in 酒田&山形

厚生労働省が介護の日とした11月11日(月)、山形県民医連では酒田市および山形市で、介護保険制度の改善を求める街頭でのアピールおよび署名活動に取り組みました。

「介護チャリンコ」が街を駆け抜ける

酒田中町をスタート！健友会と酒田健康生協の介護職員8名が「介護の日」のぼり旗を掲げ、自転車で中間病院⇒酒田市役所⇒山居倉庫⇒みずほ(国道)までを走って戻り、酒田市内の一番賑やかな場所を巡ってアピールしました。雨が強くなった午後には「介護ウォーク」にてアピール、ほぼ1日かけての取り組みとなりました。健友会では、のぞみ診療所前と病院・施設内での署名活動にも、のべ7名が参加し、外来・入所中の皆さんに呼びかけしました。



石川

シール投票で介護宣伝

介護職種部会での大きなテーマのひとつに「情勢を知る 自分たちに出来ることをする」があります。今年度の計画にも「介護ウェーブを知る、動く」と掲げ、10月に福井

民医連の介護職の方をお招きし、同じ介護職の現場での取り組みを聞いて参考にし、刺激をもらいました。

11月2日には名鉄エムザ、バス停前で、医労連と合同での介護ウェーブ(署名・声かけ行動)を行いました。介護職種部会ではシール投票をお願いしました。職員の子供たちの積極的な声かけに盛り上げられ、職員も声を張って署名とシール貼りを勧めました。署名は全体で200筆を超え、シール貼りも「介護の仕事をやってみたいか」YES:43 NO:34 計77。「介護のイメージは」よい:117 悪い:12でした。お答えいただいた内容をいくつか紹介します。

・便とか無理(20代男) ・やってみて無理(高校生女) ・体力もたない(高校生女) ・しんどそう ・体力的につらそう(女)

・老人が好き(高校生男) ・今の仕事に満足している ・力になればやりたい ・いいイメージしかない。大事なことからやってみてもいい(20代男) ・これからしなくちゃいけない。仕方がない(女) ・夜勤などして大変だと思う ・世話をしたことがあるけど大変ですね ・老老介護が大変 ・人とのつながり ・あたたかい ・やりがいがあるね ・頑張ってるね など世間のイメージや思いの片鱗を見る事ができました。

印象的だったのが石川県内の「福祉学科」の高校生の言葉でした。実際に介護を勉強している高校生が学習や体験から、「無理」「体力が持たない」と言うのはとても残念な気がしました。私たちが生業としている「介護」の本質や仕事で受ける「喜び」「楽しみ」をどう発信していくか、また辛いことや悲しいこともあるけれど、仲間を乗り越えていくことで得られるものなどを世間やこれから「介護」に関わっていく人たちに上手に伝えていくこと、また国に自分たちの思いを認めてもらい国からの発信もしてもらうこと、待遇改善、利用者への負担軽減など伝えなきゃならないことはたくさんあるなあ実感しました。

